



11月27日(土)、今年最後の「まるごと学ぼう!食育講座」が札幌エルプラザで開催されました。
(報告記事7ページ)



上 ひとりひとりに手渡された修了証を手に持って、本間先生、スタッフと共にグループごとで記念撮影。

下 最後に全員揃ってピース。「楽しかったあ～」「来年も来るぞ!」先生やスタッフに何度も手を振って、子どもたちは元気に教室を後にしました。

発行

NPO 法人 北海道食の自給ネットワーク
札幌市東区北15条東18丁目2-17 (有)ワードエム内
TEL (090) 2818-5502 FAX (011) 789-8890

ホームページアドレス
<http://jikyuu.net>
E-mail: info@jikyuu.net

今月の話題

環太平洋パートナーシップ(TPP)協定について

北海道農政部 政策調整グループ

○ TPPについて

「環太平洋戦略的経済連携協定」（以下「P4」と言う）は、ブルネイ、チリ、ニュージーランド、シンガポールの4カ国が参加する2006年に発効した自由貿易協定です。その内容は、農産物を含む物品の貿易は、原則として全品目について即時、原則10年以内に関税の段階的な撤廃をすることとしており、さらに、物品のほかサービス貿易、人の移動等を含む包括的な協定と言われています。

環太平洋パートナーシップ協定（以下「TPP」と言う）と言うのは、このP4をもとに平成22年に米国、豪州、ペルー、ベトナム、マレーシアが加わって、9カ国で交渉している例外なき関税撤廃が原則である自由貿易協定であり、交渉参加に当たって、自由化例外品目を提示しての交渉参加は認められない可能性が高く、農産物の除外は極めて困難なものと考えられています。

○ 国の対応等

国は、「新長期戦略」を平成22年6月18日に閣議決定し、秋までに「包括的経済連携に関する基本方針」を策定することとしていましたが、TPPについては明確にはされていませんでした。ところが10月1日開催された国会において、菅総理大臣が所信表明演説の中で「TPP交渉等への参加を検討する。」と発言されました。

その後11月9日に「包括的経済連携に関する基本方針」を閣議決定し、TPPについて「その情報収集を進めながら対応していく必要があり、国内の環境整備を早急に進めるとともに関係国との協議を開始する。」こととしたところです。

また、この基本方針において、高いレベルの経済連携の推進と我が国の食料自給率の向上や国内農業・農村の振興とを両立させ、持続可能な力強い農業を育てるための対策を講じるため、平成23年6月をめどに基本方針

を策定し、中長期的な視点を踏まえた行動計画を平成23年10月をめどに策定することとされています。

このような中で、平成22年11月30日に内閣総理大臣を議長とし、国家戦略担当大臣及び農林水産大臣を副議長とする「食と農林漁業の再生推進本部」(以下「推進本部」と言う)、この推進本部の諮問機関として民間の有識者やこの推進本部委員を構成員とする「食と農林漁業の再生実現会議」(以下「実現本部」と言う)を設け、農業改革のあり方等を検討することとされています。

また、12月7日に関係省庁の副大臣等で構成する「食と農林漁業の再生実現会議幹事会」を設置し、「実現会議」を補佐し、基本方針の素案をまとめることとしています。

さらに農林水産省では、官邸に設置された「推進本部」への農林水産省の検討結果を入力していくため、農林水産大臣を本部長とする「食と農林漁業の再生推進本部」(官邸の推進本部と同名)を11月30日に設置しました。

○北海道への影響について

仮に重要品目の関税撤廃の例外措置が認められない交渉となった場合は、大規模で專業的な経営を主体に営まれ、低コストで安全・安心な農産物を安定的に供給している本道農業であっても、米国や豪州と比べ土地や社会条件等が大きく異なることから、生産者を含む関係者による構造改革努力では、小麦や乳製品などの価格差は解消できないものと考えています。仮に戸別所得補償で農家所得を確保するとしても、外国産農産物が自由に輸入できる状況下では、均質でまとまったロットを確保しやすい等の有利性を持つ外国産に需要が奪われること、小麦粉、砂糖、でん粉、乳製品は、工場で加工されて消費者に届けられるものであるが、人件費や電気などが割高であるため、工場の製造コスト低減努力では、対応できることなどから、農業生産を継続することが困難となり、その結果、農業とともに関連産業がなくなり、道内の農村地域においては、地域社会が崩壊することが懸念されます。

北海道の重要品目である米、小麦、でん粉原料用馬鈴しょ、てん菜、牛肉、酪農、豚の7品目に対する関税が撤廃され、国内対策がとられなかった場合の影響を試算した結果、単年度で農業産出額等で約6千億、さらに農畜産物の関連産業の影響額や地域経済への影響額を合わせて、道内に2兆円を超える影響があるものと試算し

TPPによる北海道への影響試算

■影響額合計	▲ 21,254 億円
うち農業産出額	▲ 5,563 億円
うち生産条件不利補正交付金	▲ 617 億円
うち関連産業	▲ 5,215 億円
うち地域経済	▲ 9,859 億円
■雇用	▲ 173 千人
■農家戸数	▲ 33 千戸

たところです。

また、農業は農産物の生産のほか、洪水の防止や水資源のかん養、さらには美瑛などに代表される美しい景観の形成、生態系の保全や自然教育など様々な役割を担っており、この農業・農村の多面的機能を北海道では1兆3千億円と評価額しており、農業の継続が困難となったときは、これらの多面的機能も失われることが懸念されます。

○北海道等の対応

北海道としては10月25日に関係団体等と連携して、TPPへの参加については国民合意が取れるまで十分な時間をかけて慎重に検討することなどを国に緊急要請し、北海道議会は11月8日に臨時議会を開催し、全会一致で「TPP交渉への参加を行わないよう求める意見書」を議決し、農林漁業団体では11月12日に国会議員、北海道議会議員、農業団体、消費者団体、経済団体、労働団体と一緒に道民総決起大会を開催し、TPP交渉への参加に反対する等の大会アピールを採択したところです。この後、道内各地域でもこのような集会が隨時開催されています。

このような中で、11月18日に再度農業団体のほか経済団体、消費者団体、道議会、労働団体と連携し、オール北海道で、道民合意がないまま関税撤廃を原則とするTPPへの参加を決して行わないことなどを国に要請しました。

また、併せて東北6県の知事との連名で、同様の趣旨で国に要請するとともに、1都8県の首都圏の宅配生協であるパルシステム生活協同組合連合会さんも同行し、同様な要請をしていただいたところです。

今後とも、道としては国の動きを注視し、情報の収集や提供を進め、農業をはじめとする本道の基幹産業が将来にわたって地域を支え着実に発展していくため、今

後とも国にTPPについて要請していく考えであります。

また、国が基本方針を23年6月をめどに策定することとしているので、本道の扱い手が将来にわたって、意欲と希望を持って営農できる具体的な農業ビジョンとなるよう、関係団体と一緒にやって全力で政府に働きかけてまいりたいと考えています。

さらに、北海道では地産地消や食育、スローフード運動を総合的に推進する「愛食運動」を展開し、生産者は安全で品質の良い農産物を生産し、消費者は食生活を通じて生産者を支えるという、食を通じて強い絆で結ばれるよう進めています。道内各地域でもこうした取組が進められており、今後一層、地産地消を推進とともに、効率的効果的な農業生産を進めて生産性の向上を図り、持続可能な農業・農村を構築してまいりたいと考えています。

○期待される北海道農業

穀物等の国際的な需給は、開発途上国を中心とした人口の増加や経済発展などにより、中長期的にはひっ迫が予想されており、また、世界の農業生産は地球温暖化や水不足、各地での豪雨や干ばつをはじめとした異常気象の頻発、輸出国の不作による輸出規制等の不安要素があります。一方、食料の生産と輸出は特定の国・地域に集中しており、また栄養不足人口も増加する傾向にあります。

世界最大の農産物輸入国で約6割を輸入に頼っている我が国においても、このような世界の食料需給の状況の中で食料の不測の事態に対応できるよう、ある程度の国内生産常に確保する必要があると考えています。しかも農業はその国の土壤、気象条件や民族性に適合する形で国内自給基本に発展してきた歴史があり、一度失われると簡単にはもとに戻らない産業であります。

北海道としては、今後も我が国最大の食料供給地域として、消費者の皆様に安全・で安心な食料を安定的に供給していきたいと考えていますが、消費者の方々も地域で生産される農産物を選ぶことによって、地域の農業を応援していただけるよう期待しています。





食の思い出の季節の話題

食のつれづれ日記



ありそうでない試み？「みんなの畑」

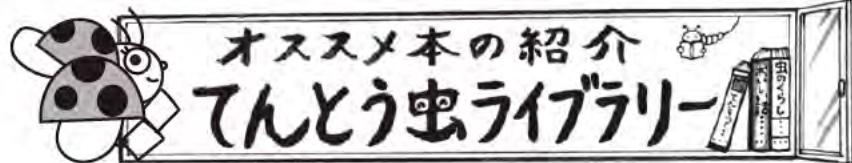
さっぽろ自由学校「遊」事務局 滝口 香織

前回は、石田英人さんによる家庭菜園のお話でしたが、今回はさっぽろ自由学校「遊」(以下、「遊」)で今年度から始めた、一風変わった畠づくりの試み「みんなの畑」を紹介します。これは、「遊」の創立者のひとりである哲学者：花崎皋平さん宅の畠の一画のことです。小樽の高台にあるこの畠を、今年度から「遊」でお借りすることになりました。春先にメンバーを募集したところ、5組の親子を含む、初心者ばかり総勢約20名が集まり、初回の話し合いで、欲張りにも約20種類の野菜をつくることになりました(きゅうり、なす、トマト類、ピーマン、大根、にんじん、かぶ、かぼちゃ、ズッキーニ、葉もの4種、じゃがいも、とうもろこし、豆類3種)。これを、札幌から月に1、2度のペースで通って行おうというのですから、ちょっと無謀です。まあ、細かいことはすすめながら考えることにして、何よりみんなで畠づくりをするプロセスを楽しむことを第1の目的にしました。

昼食は、毎回台所をお借りして作り、皆で一緒に食べました。わからないことは、今までこの畠で有機栽培してきた花崎さんにアドバイスを求めるつもりで、特に決まった講師は設けませんでした。しかし、お忙しい花崎さんは、肝心なときに限ってお出かけ中。結局、メンバー同士で無い知恵をしぶり、初期の重要な作業である種まき、苗の定植、支柱立てなどは、各自が聞きかじっていた知識を寄せ集め、勘を頼りにすすめました。苗をきれいに植え終わったときは、それはもう感動ひとしおでした。

ところが、6月上旬に整然としていたはずの畠は、7月になると、うっそうとしたジャングルのように変貌。夏の太陽の恵みにより、数週間のうちに作物も雑草もこんなにも生長するものなのだと、ただただ驚くばかりでした。収穫はというと、私たちのお粗末な手入れのために残念ながらよく実らなかった野菜がある一方で、それにもかかわらず、すぐすぐと生長してくれた野菜(ミニトマト、大根、かぶ、じゃがいも、ささげ、枝豆、とうもろこし、かぼちゃ)もありました。自然の力さまざまです。

私自身、見当がつかないことばかりで、はじめは不安もありましたが、6月下旬に初めて葉ものの野菜が採れたとき、ふっと心が軽くなりました。そして、知識やマニュアル先行でないこの試みをいつしか愛しく感じるようになっていました。野菜には、育てやすいものとそうでないものがあることを身を持って知り、いつも産直で取り寄せている野菜に対して、畏敬の念すら感じるようになりました。来年また仕切りなおして、2年目の「みんなの畠」をします。あなたも一緒にしませんか？



オススメ本の紹介 てんとう虫ライブラリー

「なるほど！北海道のお天気」

著者 菅井貴子

発行 北海道新聞社 2009年12月発刊 1365円

近年、異常気象による農水産物へのダメージや災害の発生など、人々の生活に及ぼす影響が目立ちます。また、温暖化が進めばそう遠くない将来、北海道でコシヒカリが栽培可能になるかもという話もあながち冗談ではないかもしれません。農業は自然と隣り合わせなので天気が読めないと作業が後手後手になります。なんとか周囲を見回して予兆をつかもうとしますがまだ経験が足りません。そのため気象予報はとても重要です。今回紹介する本は気軽に楽しくお天気を知ることができます。筆者はご存じNHKのキャスターで気象予報士の資格を持つ菅井貴子さん。少し内容を紹介します。

「お天気歳時記」

北海道の四季折々の事象を天気という観点から書かれています。コラム形式なのでどこからでもスッと読みます。木々や花・そこで暮らす動物のはなし、農業や漁業の特性、その季節・地域ならではの風物詩、日々の暮らしに役立つワンポイントなどなど。非常に幅広くどれも興味深い内容になっています。人々の暮らしや昔からの風習、伝統文化は天気との関わりが強いものも多く、昔からの蓄積が言い伝え・ことわざとして今も受け継がれています。へえなるほどと、心が豊かになるような気がします。

「おさえておきたいお天気基礎知識」

雪はなぜ降る？流氷はどうして凍るのか？などの疑問や、高気圧・前線・注意報といった気象予報でよく使われる用語の解説。

「ご当地お天気」

北海道はその面積の広さから各地の気象にもそれぞれの特色・個性があります。ここでは著者が体感してきた各地のお天気の特性が記されています。

「知っておきたいエネルギーと防災」

限りある資源に対して北海道ができること。いくつかの可能性が提示されています。なかでも代替エネルギーとして脚光を浴びたバイオエタノールや、沼田町や美唄市などで実際に活用されている雪氷熱エネルギーは注目だと思います。防災についての知っておいて損のない情報、実際に災害に遭遇した場合の心構えが書かれています。

お天気のこと北海道のことをもっと発見できる一冊です。天気予報がこれまでとは違って見えてくるはずです。

芦別市 太田拓寿(生産者)



大豆プロジェクト活動報告 ～生豆の発送が終わりました～

大豆プロジェクトリーダー 五十嵐 美由紀

11月27日、11回目となる生豆の発送作業を行いました。今年は今まで経験したことのない記録的な猛暑にみまわれ、大豆の生育は進んだものの雨の影響で収穫ができず、大豆の表面にシワがよったり皮がはがれるなど品質低下がみられました。しかし「おいしいトラスト大豆を届けたい」と言う生産者の想いで選別作業に時間をかけ、例年とそん色ないトラスト大豆をみなさんにお届けすることができました。

「作り支え」「食べ支え」の絆に支えられ、トラスト大豆約200kgの発送作業を無事終えることができました。

今後はトラスト運動の輪を広げるため、今まで関わりのある加工業者さんや連携できそうな飲食店などを訪問し、PR活動に奔走したいと思います。



小麦プロジェクト報告

事務局 蒼島 礼子

12月15日に無事第1回小麦トラスト製品を会員の皆さんのもとにお届けしました。今年から新しく札幌の菓子メーカーの「秋月」さんが参加し、一度途絶えた和菓子を復活することが出来ました。また、岩見沢産の「ゆめぴりか」を練り込んだパン、特産品の玉葱と人参を使った野菜パンや健康パンなど、メーカーさんの力作が今回も加わります。

しかし今年も異常気象の影響を受けたトラスト小麦のハルユタカでの製品化をすることは出来ませんでした。猛暑に加え小麦にとって致命傷の収穫適期に襲った降雨で穂発芽が発生し、江別のハルユタカは壊滅状態となりました。これまでハルユタカで製品化していたメーカーさんには急遽、秋播き小麦のキタノカオリとホクシンの2種類で試作製品化してもらい、キタノカオリの特性を生かした文字通り「香りのよいモチモチ感」のある美味しい新製品にめぐり合うことが出来ました。

収穫時期の早い秋播き小麦は、春播き小麦ほど降雨の影響が少なかったものの、受粉期の高温で一気に生長した小麦は未登熟粒を作り歩留まりの悪いものになりました。しかし製品化できたのもJAによる選別調整や製粉会社の製粉調整の努力のお蔭だと思います。

消費者にはなかなか見えない経路、よいものを作ろうと頑張っている生産者やJA、製粉会社の思いを参加者と共有していくのがトラスト運動です。ここ数年天候不順で自然の影響を受けたトラスト小麦ですが、このトラスト活動をとおして「食べ支え・作り支え」の大切さ、北海道農業と自給力向上への意識を高めていきたいと思います。



まるごと学ぼう!!

食育講座2010活動報告

食育プロジェクトスタッフ 千葉 彰子

11月27日(土)の第6回講座で2010年度の食育講座は修了しました。第1回講座の料理の基本と環境NGO「エゾロック」のメンバーによるフードマイレージのお話は、解りやすく興味を持つような工夫で、みんなの心にしっかりと届いたようです。第2回講座は、旬の食材はからだにも地球にもやさしいという内容。3回目の漁師の石崎さんの講座では、タコつぼから出てきた生きたタコの大きさに歓声があがり、びくびくしながら触ったり、吸盤の強さに驚いたり。子どもたちはひとり一匹のかれいを調理して、新鮮な魚のおいしさを実感していました。第4回の有機野菜の小路さんの農場では、循環型の農業を学びました。じゃがいも、人参など収穫を体験した事のある子供たちも、ごぼうの収穫は初めてで、同行したお母さんたちも畑に着くまではごぼうの葉の形と土の中の様子は想像できませんでした。まだ暖かい、にわとりの卵を手にしたあのぬくもりも、忘れられない思い出となったようです。「命を頂く」と言う事を、3回目、4回目で伝わったのではないでしょうか。中央市場見学の第5回講座では、流通のしくみの勉強です。大きくて広い市場の中でたくさんの食材があり、大勢の方々の手を通して私たちの所に届く事を学びました。

毎回毎回の講座は、子供たちにとって楽しくて新鮮だったのでしょう。午前中の実習や見学、そして午後からの講義も低学年でも居眠りすることも無く目を輝かせて聴いていました。講議の後、子どもたちからたくさんの質問が出るので。そして、感想文もたくさん書いていました。第6回講座は今まで学んだ事の集大成で、自分たちで考えたメニュー作りです。魚をさばき、汁ものはもちろん混ぜご飯にもだし汁を入れると、素材の旨みが出て調味料が少なくておいしいごはんが出来ることを実践し、だしを取った後のこんぶ、かつおも再利用をしていました。栄養バランスを考え、シンプルな献立でも丁寧な食事作りをしている姿は、自信にもつながっているように見えました。1回目の講座では恐る恐るの包丁さばきでしたが、6回目では手際よくしかも洗い物をしながらの食事作りができるようになりました。今年は各班4人の子供たちと、お姉さん的存在でもある藤女子大生のスタッフ参加もあり、従来スタッフの私達も食事づくりに追われること無く子供たちと接することが出来ました。リーダー役の高学年の子供もメンバー同士のコミュニケーションを取り、ゆずりあっての作業は微笑ましく、ひとり人が成長している姿を見ることが出来たのは嬉しい事でした。家庭の食卓でも、自分で作ったお料理と講座で得た事を話しながら「食べることを楽しんでほしい」と願っています。最後にこの講座に関わって頂いた多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

『会員交流会に参加して』

盛り上げ隊スタッフ 杉田 恵子



12月12日(日)、雨風激しい悪天候の中会員交流会が行われました。会場となつたサッポロファクトリーは彩り豊かにクリスマスが演出され、大きなツリーがムードいっぱいに点灯する中、アトリウムではさまざまなイベントが開催されました。

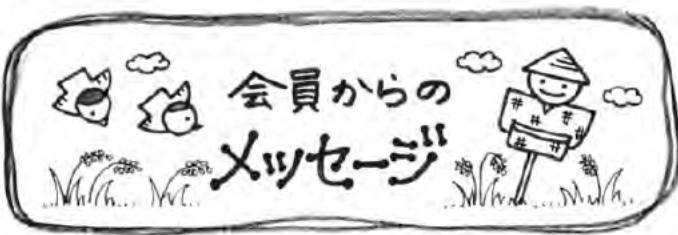
家族連れやカップルで混み合うアトリウムと扉ひとつ隔てたファクトリールームで交流会は開催されましたが、残念ながら参加者14名という少人数での交流会となりました。

まず、『北の箸工房 よし膳』の高橋義人さんのご指導の下、マイ箸作りの挑戦です。高橋さんの出身地である福井県小浜市で約400年前に生まれたという若狭塗りが施された箸を、コロと呼ばれる立方体に巻きつけた紙やすりで研いでいきます。あまり力を入れる必要はないといわれても、コロを上下に動かす右手には自然と力が入って二の腕はだるくなり、箸を押さえる左手も、爪が白ばむほど指先に力が入る始末。けれど、やがて朱色の塗りの下から鮮やかに模様が浮き出でくると、気分は一転。ふと頭を上げると、あちこちから感嘆の声と笑顔があふれています。この模様は、海岸で拾い集めた貝殻と卵の殻で出しているということで、まさにエコな箸。この世でただ一つのマイ箸です。一膳分、綺麗に研ぎだされ、最後に仕上げのくるみ油を塗って頂いた時の感激は、なんとも表現の仕様がありません。

続いては、環境問題に取り組んでいる環境NGO『エゾロック』のスタッフと、軽食を楽しみながらフリートークを行いました。ゴミの分別や削減について、大事だとは分かっていても現実には自治体の決め事を渋々守るのが精一杯の私には、耳の痛い話もありましたが、環境問題の現状や地域・個人の取り組みについて情報交換ができ、良い場をもてたと思います。

今回の交流会は「自給ネット会員交流会を盛り上げ隊スタッフ募集」に応募した3名の私たち会員が計画・準備段階から関わらせて頂き、貴重な経験ができました。ありがとうございました。次回の交流会では、もっと多くの方に参加していただき、親睦を深めるものであつたら良いなと思います。

最後に、企画・調整のために、まさに師が走るごとく奔走されたスタッフの皆様、及び美味しい軽食を差入れして頂いた皆様、ありがとうございました。



食育講座で感じたこと

札幌市 前平 知香(藤女子大学4年生)

最近、時の経過がとても早く感じます。今年の4月から食の自給ネットワークの「まるごと学ぼう!食育講座」に参加させていただき早6ヶ月、無事に子ども達が卒業するまでを見届けることができました。当初は子ども達と仲良くできるか、どこまでスタッフが介入してよいのか不安でした。私達が介入しすぎては子ども達の自主性が失われてしまうし、子ども達だけでは何から始めたらよいのかわからなく先に進めない。しかし、不安とは裏腹に実際は人懐っこい子ども達が多く、最初はスタッフに指示されて動いていた子も、回を重ねるごとに自ら率先して調理や後片付けをするまでに成長していました。子ども達の包丁さばきは、未だにはらはらすることがありますが、最初の頃と比べるととても頼もしく感じます。

この講座では調理をするだけではなく、環境や流通、農業や食に関わる様々なことが学べ、グループ単位で行動することで仲間を思いやる気持ちや責任感が身につく講座であると思います。また、子どもたちはひとまわりも、ふたまわりも成長していくことが実感できます。あっという間の6ヶ月でしたが、私にとって貴重で濃い経験でした。また来年も可能ならば参加したいと思っています。

我が家の菜園はトレーサビリティ

札幌市 内田 可奈子

皆さまお元気ですか！

もう十年も前のことになるでしょうか、家庭菜園を始めたばかりの頃の事です。購入した種子が色鮮やかにコーティングされているのを見て不安を感じ、自給ネットの大熊さんにその安全性について相談したことがあります。特に心配だったのは、遺伝子組み換えの可能性です。不安が膨らみ最悪のことを連想してしまったのですね。張り切っていた農作業を中断して悶々とすること数日。どうしたものかと悩む中ハタと思いついたのが自給ネットの存在でした。

私の不安を真正面から受け止めていただき、しかるべき機関で調べ「遺伝子組み換え種子混入の可能性なし」との返答を得たときにはホッとしました。

その後10坪だった家庭菜園は150坪になり、我が家の中の自給率は飛躍的に高まりました。肥料の骨粉は大丈夫か？大豆かすは安全か？苗床の土はどこの土？など、まだ試行錯誤は続いているが、それ以上に野菜つくりを満喫しています。

そして自給ネットの会員の皆さんのおかげで、いつも頼もしく思っております。

● ● ● ● お 知 ら せ ● ● ● ●

食の自給フォーラム2011開催日決定！

主 催：食の自給フォーラム2011実行委員会

(NPO法人 北海道食の自給ネットワーク、さっぽろ自由学校「遊」、環境NGO ezorock)

タイトル：「いのちのつながりと食と農～身近な生活から生物多様性を考える～」
(仮題)

日 時：2011年2月19日(土) 13:30~16:00

会 場：札幌エルプラザ3F 大ホール (320人収容)

出 演：天笠 啓祐 (あまがさ けいすけ) 氏

(科学ジャーナリスト・遺伝子組み換えいらないキャンペーン代表)

今年、名古屋で生物多様性をテーマにしたCOP10が開かれたのは、記憶に新しい事でしょう。

遺伝子組み換えフォーラムでおなじみの天笠啓祐さんに分かり易く「生物多様性についての問題点と実情」を教えていただきながら、私たちの身近なところから世界に広がる生物多様性の問題を再確認しましょう。後半では、20代の若者を交えてのトークタイム。北海道に住む私たちの視点から今回のテーマについて考えてみます。

雪祭りの余韻がまだ残る2月19日ですが、札幌駅北口正面の札幌エルプラザへ是非足を運んでください。

待ったなしの状況にある生物多様性の問題ですが、まだ私たちにできることはあるはずです。それを一緒に考えてみませんか？詳細は後日チラシ等を郵送します。お友達、ご家族では是非ご参加下さい。



今年もあと残り数日となりました。皆さんにとってどのような2010年でしたか？

毎年12月31日を一晩過ごすといつも迎える明日じゃないか。時は止まらず、永遠に続く日めくりと思っていましたが、明日を迎えるために人は立ち止り一息ついて振り返る大晦日と367日はないのだと考え直しました2010年12月のある日です。

会報てんとう虫は今年も飛び回りました。会員の声を求め、新しいお知らせをあなたのものとへ運んでいきました。お便り届きましたか？今回たった1行ですがうれしいお便りが戻ってきました。～前回は○○さんによる家庭菜園のお話でしたが、今回は△△が～○○さん如何ですか？あなたのお便りに△△さんがつないでくれました。形が見えるってうれしいですね。肩で息をしてたんとう虫がスマイルでまた飛び出していきます。200人の声をつないでいく為に、まずあなたのものとへ向かいます。窓を開けて待っていてくださいね。

そして2011年が皆さんにとって素敵な1年となりますように…

(事務局 萩島礼子)